明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回
明治二十一年二月二十八日内務省許可（廿日發行）

大正三年十一月二十五日發行

婦人衛生雜誌

第三百號

婦人衛生雜誌

第三百號目次

講演

叢談

育兒

家庭衛生

雜報

廣告

大日本婦人衛生會

十二月例會通知

來る十二月五日(第一土曜日)午後一時より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校内に於て本會例會相開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御來會被下度候

一、獨逸に於ける婦人事業の一班

ドクトル 三田谷 啓君

大正三年十一月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの、如くまことに口惜しきことなり因て頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尙之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に隨宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會資は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會資とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會資は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るゝのとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員三十名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託するとあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記は相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして趣意を諮せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむるとを得へ但衣服は總て質素たるべき事、●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會資は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に同送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配付すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を寄册に登錄し尙本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會資金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし振替にて口座番號東京一〇六〇〇番本會事務所宛に振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目廿二番地　私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌第三百號
（大正三年十一月二十五日發行）



時局と心理（承前）

高島平三郎

すべて今日の如く人の健康をすゝめることの出來るやうになつて來たのも詰り科學の進歩から來たことであります。其の原因の判らぬ中は殆ど癒らぬ病氣の様に思つて居りましたが、其原因の研究された結果今日では蚊の血の中に「マラリヤ」菌の病毒が入つて居て其蚊が人間を螫す爲に「マラリヤ」菌が人體に注射され之が爲に熱が起ると云ふ事が分りましたから人體の周圍にさう云ふ蚊を近づけぬやうにすればよいといふことが分りました。さうして此蚊の原因となるものは孑孑でありますから其孑孑を防ぐやうにすれば蚊は出來ません。ところが之を一々人の手で殺すことは出來ません。何うしたら征伐が出來るかと申しますに孑孑の居る水の中に石油を注ぐのです。さうすると、すつかり孑孑が油の爲に死んで仕舞ひます。かゝる事を發見したのも皆科學の道理が分つてからのことでありまして、それが爲に此病氣で斃れる人も少なくなつたのであります。此「マラリヤ」は日本にも處々にありますが熱帶の護謨の栽培をして居る所では非常に此病が流行るのでありますが此頃は次第に病原を退治することが出來るやうになりました。「マラリヤ」ばかりではなく、「ペスト」のやうな病でも我國に北里博士と佛蘭西のエルザンと云ふ人との研究に由つて病原が分り治療や豫防も出來るやうになりました。斯う云ふやうに恐るべき病氣の原因も研究に由つて次第に明になり彼の窒扶垤

里の如きは今日では早く手當さへすれば必ず癒るのであります。是は皆科學の御陰でありますから衞生に注意する人はあらゆる點に於て科學的知識を要するのであります。

御婦人は何うしても男子よりも餘計病人の世話もなさらなければならぬのでありますから、小學校に於ても女學校に於ても其の他各種の學校に於ても家庭に於ても科學的知識を一層重んぜねば衞生は勿論のこと凡てのことを正確に成し遂げることは出來ません。すべて人の知識は種々の點より研究が進んで精密になるのです。前には石炭酸を嗅げば虎列拉に感染しないと言つて無暗に石炭酸を嗅がしたものです。私共が小學校に行く時分に虎列拉の流行頃毎時間に石炭酸を嗅がせられました。確實の智識の無い時分には斯う云ふ馬鹿げた事をして居たのです。つまり何故に石炭酸が虎列拉病の豫防に效があるかと云ふとがよく解らぬからです。然るに今日のやうに衞生思想の進んだのは全く科學の力であります。けれども今日の有様では我國の科學はまだ幼稚でありまして却々獨逸などに對抗が出來ないのであります。我國民は忠君愛國の精神に富み戰爭があれば生命を鴻毛の輕きに比して君國の爲めに盡しますから外國に勝ちますが、物質の上ではまだ／＼迚も他の文明國に敵いません。衞生にしてももつと物質科學が進步發達せなければなりません。

迷信も科學の發達せぬ爲め其道理を推究める働きが乏しいから、ちやんと物の因果の關係卽ち原因結果を究めずに輕々しく偶然の事を因果の關係の如くに見做して了ふのです。醫　の方で病人を診察するにしても亦之を取扱ふに、も、學問上の知識の開けなかつた時代にはいろ／＼の迷信も行はれたのであります。それに就いて私の經驗があります。それは自分の家の恥を申上げぬと解りませぬから具體的に申しますが、私の家は代々常府で祖父母とも東京で生れて東京で育つたのでありますが、東京は兎角迷信の多い處です。……是は東京ばかりではなく、凡

て大都會は迷信の多いものです。これは無理もないことであります。一體大都會は非常に人の運命の變ることが甚いので今まで盛んであつた者が急に沒落すと云ふやうに非常に變遷が甚いものですからいろいろの迷信も起るのであります。されば何か病氣でも流行れば不思議に神樣や佛樣が繁昌します。何處かに御穴樣とか云ふ神樣だか何んだか分らぬものがあつて一時非常に繁昌しました。是等は實に文明の恥辱です。一體迷信は何でもない聯想に基くことが多いのです。共に私の祖母の健在の頃私の家で梅干を漬けましたら恰度その頃誰れかゞ亡くなりました。これは何も梅干を漬けたから人が死ぬと云ふ理はないのですが恰度梅干を漬けた時に亡くなつたので梅干と死とを聯合するやうになるのです。よく誰れでも言ふことですが。「ダリヤ」の花の開いた時に妹が死んだとか兄が死んだとか云ふやうな事がありますと毎年その時が來ると前の事を思ひ出し死と花とを結び付けるのです。それで私の家では來年更に梅を漬けましたらまた家の人が亡くなりその翌年も亦梅を漬けたら親類で人が亡くなりました。さう云ふ風に梅干を漬ける頃三遍も人が死んだものですから祖母は迷信を起して梅干を漬けると誰れか死ぬから高島家では一切梅干を漬ける事はならぬと云ふ掟を定めました。そこで祖母の生きて居る間は私の家では梅干を漬ける事はしなかつたのです。ところが私の時代になりまして大崎の方に家を移しましたが其處には屋敷内に梅が澤山ありますから「どうだいもう梅干を漬けても大丈夫だらう。今のところでは死ぬ人もなささうだ」と言つて、試みに梅干を漬けましたら恰度其時に二番目の男の子が生れました。かう云ふやうに何んでもない事でも氣にすると迷信に陷ります。よく病氣を治すのに加持とか祈禱とか禁厭とか云ふことが效くやうな場合があります。是等は何れも一種の心理作用から來るので、それは其時代の社會に一般にかゝる信仰があるゆゑ能く利くのであります。例へば昔は病は惡魔が人體に

入つて來るのであると云ふことを一般に信じて居りました故惡魔を退治れば病氣が治ると云ふ考からさう云ふ風に神様や佛様に願つて熱心に惡敵退散を計つたのであります。皆様の中にも御聞になつたり御覧になつた方もありませうがよく狐憑と云ふ病氣があります。此人には狐が入つて斯う云ふ病氣になつたのであると云ふやうな迷信を懷いて病人自身も之を信じていろ〳〵狐の眞似をしたり油揚を貪食したりします。是れ亦全くの迷信で一種の神經病に過ぎぬのであります。又或時代には病は惡血から來るのであるから血を取れば病氣が癒ると云ふやうな迷信を有つて無暗に血を取つたこともあります。これは實に危險千萬な話で動脈でも斷つたら大變であります。是等は何れも想像や迷信から來ることで病人自身もさう思つて居ます故、血でも取ると大變に快くなつたやうな氣がするのであります。かゝる次第でありますす故皆様が御注意なさらねばならぬことは素人醫者の言を信用なさることであります。此素人の親切に敎へて吳れる療法や藥劑には却つて健康を害する事が隨分あります。昔或る大名に御氣に入りの落語家がありました。其落語家が御殿に上つた時に四方山の話から「なんと此世の中で人の仕事は何が一番澤山あるであらうか」とお聞きになりました。すると落語家が暫く考へて「左様でございます。私はお醫者だらうと存じます」と申し上げましたところが、その大名は「醫者は余が臣下にも幾人にも居らぬ。世間にもさう澤山あらう筈はあるまい」と申されたので落語家も其時は言返しも出來ぬ故其儘御殿を下つて來ましたが、何うかして眞にお醫者の一番多いと云ふ事を證明したいと思つて翌日病氣でもないのに臥て居ると人が來ました。そこで「私は腹が痛くて仕様がない」と言ひましたところがそれなら何處其處に良い丸藥があるからそれを飲めば直ぐに癒ると敎へて吳れました。それから又大變大儀さうな風をして外を歩いて居ると人が容體を尋ねて又斯う云ふ處に大變良いお灸があるからそれを點えれ

ば癒るとか云うて敎へて呉れました。斯う云ふ風にして會ふ人毎に色々な事を敎へて呉れて會ふ人悉くが醫者になりました。そこで落語家は之をすつかり書き付けて置いて大名の處に參つて「私が唯今御殿に伺ひます迄に十五人に逢ひましたが悉く醫者でございます」といふうてその事を委しくお話したと云ふ事であります。實にこの通りに世の中には素人醫者が多くありますから氣を注けねばなりません。全體醫者の學問はなか／＼むづかしく帝國大學の中でも一番長い年數を重ねて居ります。獨逸あたりでも長い年月を要するやうになつて居りますが、日本でももつと長くしなければならぬと言うて居る位で醫者は非常に複雜な面倒な難かしい職業であります。それであるのに今のやうに天下の人が大概醫者になつていろ／＼と親切に敎へて呉れるといふのは實に偉い者であります。現今一般に學問の進んで來て居るにかゝはらず隨分相當の人達がいかゞはしい素人療法家の處に出入せられるのを見ることもありますがかゝることは啻に衞生に害あるばかりでなく一般の知識の上にも發達を妨げ文明を碍ぐる虞があります。一體輕々しく人の言ふ事を信ずると云ふことは人の性情としても賞讚すべき事ではありません。是は他の事でありますが婦人などが新聞に騙かされて自分の身を汚したとか一生を過つたとか云ふやうな事が澤山あります。これはつまり迷信と同じ道理で理性が發達して來ますと思想が堅固になりよく物の原因結果が分つて來ますから斯る事に紿かれることがなくなります。斯う云ふ事は啻に一個人のみならず國家にも影響することですから一般に注意せねばなりません。まだいろ／＼申上げたい事がありますが、あまり長くなつても失禮ですから以下簡單に申上げることに致します。

次に感情＝喜怒哀樂等の情＝は非常に健康狀態に關係するものであります。嬉しいとか愉快であるとか云ふやうに積極的の情は總て健康狀態に宜しいのでありますがそれと反對に腹が立つとか悲しいとか

口惜しいとか殘念だとか云ふやうな消極的の感情は人體に非常な害を與へそれが基になつて健康を妨げるやうな事があります。すべて喜んだ時には隨意筋の作用が盛になつて來るから自由に手足も動かす事が出來、從つて強い動作も出來るやうになるのです。そこで喜んで働くとドン／＼強い力が出てよく仕事が出來ますが何んでも嫌や／＼行ると二時間經つても三時間懸つても良い仕事は出來ません 又喜ぶと血管の働が活潑になつて來て心持も大變快濶になり生々として働けます。是れは人の性質として沈鬱な人もあり又快濶な人もありますから一樣には行きませぬが概して沈鬱な人は左程まで心配しなくとも宜からうと思ふやうな事も大そう心配します。餘り心配すると血管が收縮して血行作用がだんだん弱くなつて神經ばかり興奮して來ます。それ故に病氣その他の事であまり心配すると顏色が惡くなり力の無い容子をして手足が冷たくなり又眼は網膜の作用が鈍るし、呼吸が迫つて精神の作用も鈍くなります。試驗の時などに平素はよく出來る者も出來なくなると云ふのは皆斯う云ふことから起るので、さうなると好い考も出て來ないのであります。凡て人の感情は一程度を過ぎると健康を害します。餘り心配すると始終胸がつかへるやうになつて元氣がなくなつて仕舞ひます。又あんまり驚いた時は心臟が麻痺するやうになります。概して消極の情の強い時は血管が收縮しますから自然體も弱り、色々と體の中にまで物が停滯して行くやうになり、抵抗力も弱つて盛に病が入つて來ます。卽ち餘り心配を仕過ぎる人は始終ビク／＼して居るから餘計に流行病などに罹り易いのです。少し位惡い病氣などが流行しても精神が緊張して居れば大概の黴菌は血液で殺して仕舞ふものです。千八百七十年に獨逸と佛蘭西との戰爭がありました時に獨逸に占領せられた佛國民の中には心配が原因で病に罹つた者が多くあつたといふことでありますが さう云ふことは此話ばかりではなく、何時でもあることで勝つた時と敗けた時

とは兵隊の負傷の經過の良否に非常に違ひがあるといふことです。即ち敗けたことを知らせると大そう結果が惡いさうです。日本では殆んど敗けたことはありませんが、何處の國でも敗けた時は成るべく病人に知らせないやうにするさうです。若し知れるやうなことがあると今迄大層良かつた創面が急に惡くなつて來るやうなことが隨分あるといふことです。さう云ふやうに精神作用は非常に身體に影響を及ぼして來るのであります。それから餘り心配すると白髮になると申しますが、一夜の中に白髮になつたと云ふ事を伊太利のマンテガッチァと云ふ學者が記して居ます。それは或時猛獸使が獅子の檻の中に入りましたところが獅子は大變な勢で其人にかゝつて來ました。併しやう〳〵にして喰ひ殺されることは免れましたが、餘り心配をしたので一晩の中に白髮になつたと云ふことです。又佛蘭西の女で、或時俄に敵に自分の家を取圍まれて餘り驚愕した爲めに一夜の中に綠の黒髮が白雲のやうになつたと云ふ例もあります。それから又支那にも之と同樣の話があります。昔支那の都に大そう高い塔が出來て其塔に字を書くことを命せられた人が餘り高いのでブル〳〵慄へながら書いたので翌朝頭髮が白くなつたと云ふ事もあります。斯う云ふ風に非常に心配をすると身體に大變影響をするものでありますから餘程注意せねばなりませぬ。斯う云ふことは其人の性質に依ることで、心配せずには居られぬと云ふ人もありますが、さう云ふやうな性質の人の體の樣子は餘り肉付きの宜くない、どつちかと言へば瘦せた骨つぽい人で癇癪持ちであります。さう云ふ人は多くは胃腸が惡いもので腸胃が惡いと自然癇癪も起り、大さう腹を立てゝ終には黃疸のやうな病氣になると云ふ風に身體にいろ〳〵と變化を起して來ます。併し感情はたゞ病氣を起すのみでなく時として之を愈すことが往往あります。佛蘭西のメチニコフと云ふ人が書いた本の中に、或所に啞の婦人がありましたが或時隣から火事が出て喫驚しましたが其火事を隣家に知らせ

る爲に今迄何も言へなかつた者が「火事」と云ふことを言ひ始めて、それから物が言へるやうになつたと言ふことであります。さう云ふ風に大變な刺戟や恐怖心の爲に病のよくなつたと云ふこともあります。又佛蘭西に革命の起つた時にもさう云ふ例がありました。併し是等は稀有のことです。要するに誰でも愉快な積極的な考を有つてクヨ／＼心配せずに暮して居ると縦令病氣に罹つても輕くて濟みます。普通の人なら迚も助かるまいと心配してます／＼病を重らせ終に死んで仕舞ふと云ふやうな時にも平氣で病に抵抗することが出來、而も立派な仕事をすることさへ出來る場合があります。

最後に意志と疾病との關係を說明して此演壇を下らうと思ひます。すべて人は心の持ちやう決心の仕方に因つて病氣にもなり又癒りもします。ヘルッと云ふ醫者の診察した患者にモリッツと云ふ人がありまして此人は肺病に罹つて居りましてチエールの見込では癒らない患者なのです。併し癒らぬといつたら力を落すだらうと思つて、貴方の病氣は別段藥を飮んだり養生したりすることは要りませぬ。確に癒りますといひました。併し少しも良くなりません。そこでヘルッは何うしたら宜からうかといろ／＼心を苦しめましたが、此患者は名高い神學者でありましたからいつそ眞實のことを言つた方が宜からうと思つて其事を明かしました。すると其人の言ふには、何うせ死ぬものなら何をしても駄目だからと云ふので種々と食べたい物を食べ著たい物を著、好きなことをしてどん／＼働きました。さうすると一年經つか經たぬ中に全く快くなつて仕舞つたと云ふことであります。

かく強い意志の爲めに重い病氣を癒すことの出來ると云ふ事は確であります。ゲーテは精神就中意志の力で傳染病から免れることを得て精神力は身體をして外敵の侵襲に打ち勝たしめることを悟つたといふことです。又ペッテンコーフェルと云ふ人は曾てコッホ先生の「コレラ」が黴菌から來るといふ說に反對して

「何うしても虎列拉は黴菌から感染するのではないといふ説を主張し之を證明する爲に己れが飲んで見せると言つて虎列拉にかゝつた人の吐物を飲んだ人であります。併し別に何ともなかつたと云ふことです。斯く傳染病の病菌を飲んでも何ともなかつたと云ふのは詰り意志の強く精神が緊張して居つたからであらうと思ひます。斯う云ふ風に精神が緊張して居れば病菌に打勝つ事も出來るのであります。今世界は大戰爭の修羅場となつて居ります。然るに大戰爭の後には流行病のあるものですから吾々は之を豫期して油斷をせぬやうに、何時も緊張した強い精神を以て事に當らねばなりません。さうして萬一病氣になつた時は醫者に信賴して、その言ふ通りによく注意し決して非醫者の言を聽き迷信に陷るやうなことの無いやうにせねばなりません。要するに軍國の婦人たる方々は積極的衞生を以て國家將來の準備をなさることが大切であると信じます。

又御婦人は天賦の麗はしい天使の如き情を以て社會の慰安者と爲られんことを望むのです。婦人は此の美質があればこそ價値があるので、之を失つた婦人は香水に香の無くなつたやうなものです。さうして此の美質の上に科學的智識を有つて、ちやんと其處は斯うである。彼處は斯うである。斯うすれば斯う云ふ結果になると云ふ風によく道理を辨へて事を所置されねばならぬと思ひます。私は最後に、看護婦に就て一言致したいと思ひます。凡そ世界の文明國の看護婦の中で日本の看護婦ほど麗しい優しい者は無いと申します。實に天の使であるとまで言はれた日本婦人の美質を遺憾なく發揮して居るのは看護婦であらうと思ひます。是は私が嘗て經驗したことでありますが、私は先年窒扶斯に罹つて長く看護婦の世話になりましたが、その人は萬事に親切でありまして實に日人婦人の美質を充分に具へて居ると思ひました。そうして此優しい情の上に衞生上の智識を有し所謂科學的基礎に由つて萬事を處置して呉れますから私の如き患者も大に滿足したのであります。

軍國の婦人たる皆様は衞生上の智識を始めすべて科學的智識を修養せられ其上に優美なる天賦の情を以て愛する國家の爲めにお盡しにならんことを切に希望致します。

甚だ詰らぬことを申上げまして總裁宮殿下を始めさ致しまして皆様方の御清聽を汚しましたことは眞に私の光榮と存じます。

叢談

衞生上の戰鬪

生物といふものは、何とかして活きて行かねばならぬ一つの法則に支配されて居ります、尤も人間は自殺と云ふことも致しますが、これは變則で、普通には何うしても活きたい、又活きて行かなければならぬやうに出來て居るのであります。所が又一方には死といふものがあつて、同じく生物を支配して居る、如何にしても死を免れることは出來ないことになつて居ります。而して一方の生と他の反對側の死との間に所謂生存競爭といふ活劇が演せられるのであります、これとても矢張自然の然らしむる所ではありますが、これは前の生及び死のやうに岩や鐵の如く少しも動かすことの出來ぬ不可抗的の原則ではない生存競爭と云ふことは、生活に伴ふ必然の活動でありますけれども、少なくとも人間には此間に餘程自由が與へられて居る、即ち生存する爲に競爭はせざるを得ぬ、又此世に生存するに適當してゐるものは優勢になり、不適當なものは衰亡する、強い者は勝ち、弱いものは敗けると云ふと定まつて居りますけれども、人間は一程度迄は自分の努力次第で、生存の條件に適應し、優者となり、强者となることの出來る能力を有つて居るのであります。現に人類はこの地球上に於て最も優等の地位に立つて有ゆる生物を凌いで居ります、けれども倘ほ生存競爭を續けな

ければならぬ、下等の生物と生存競爭をしなければならぬのみならず、人間同志の間に於てこの競爭をしなければなりません、吾々日常の生活に於ても一度この競爭に敗ければ、忽ち下等の地位に落ち、或は乞食となり或は首を縊らねばならぬと云ふ境遇に立到るのであります、又國と國、或は人種と人種の間にこの競爭が行はれる、現に目下歐羅巴を中心として殆ど世界中の國が猛烈な生存競爭を演じて居ります、これは吾々が毎日新聞、電報、號外で以て一一その狀況を審かにし、一刻も早く確實にその眞相を知らむと欲する所で、つまり一國の存亡に直接關係して居る事柄であるからであります、此方面は姑く措きまして、私の玆に少しく戰況を報道致し度いと思ひますのは人間同志の戰爭でなく、人類と他の生物との戰爭であります、もう少し狹く詳しく言へば人體と、人體に仇をする生物との間の戰爭に就て、その狀況の概要を報道して見たいと思ふのであります、これも直接吾々の健康、生命に關することで一刻も茫然して居る譯には參りません、出來得るだけ敵狀を審かにし、又自身を省みて十分劃策する所がなければなりません。

扨て人類に對する人類以外の敵たる生物は實に多數でありますが、虎とか狼とか、鰐又は毒蛇の如きものに對しては、人間は既にこれを征服し得て、今日では動物園などに飼養して居りまする外、自然に於ては熱帶未開の人種がこれと鬪を續けて居るに過ぎません、それから文明の程度も低く、學術の進步しなかつた時代に於きましては、惡魔とか、天狗とか、その外幽靈、鬼神種々樣々の惡いものが居つて人類に仇をしたやうでありますが、世の中が開け、人間の智識が進むと共に、科學の照魔鏡に本體を觀破され、智慧の光明に照されて影も形もなく消滅して仕舞ひました。所が今日に至て尙ほ斯樣な怪しげな敵に惱まされて居る人が少くない、精神に異常のある人ならば已むを得ぬことであるが、健全な人間が今日斯樣な妄想の產物に苦しめられて居ると云ふは甚

だ憐むべきことであります。迷信に捕はれて斯様な怪物と共同生活をして慄ひ上つてゐるやうなものを光明の世界に救出すのが宗教の本旨らしいのですが、兎角宗教と云ふと、却つて幽靈妖魔の本家の如き観あるは實に奇怪なことであります、それで幽靈や妖魔を退治致しますのには實驗科學の普及と云ふことが一番效力があると思はれます。

猛獸や惡鬼の如きものは既に人類の敵ではない、最早怖るゝに足らぬやうになりましたが、今日では眞に恐るべきものは惡鬼とか猛獸とか云ふやうな大袈裟な敵ではない、寧ろ今まで蟲螻と侮つてゐた其の蟲螻、否更に蟲螻よりも遙に下等な黴菌共であります。孫子の兵法には『彼を知り己を知る、百戰殆からず。彼を知らず、而かも己を知る一勝一負。彼を知らず、己を知らず、毎戰必敗る。』と言ふてありますが、從來の衞生上の戰爭は如何でありましたらうか、惡鬼だとか怨靈だとか妄想所產の假想の敵に向て全力を擧げて戰鬪し、病原菌の如き眞正の敵は全くこれを認めることも出來なかつたのであります、それから生理も解剖も病理も知らない、孫子の所謂彼を知らず、己を知らずと云ふ狀態でありますから毎戰必ず敗るで、疾病史或は疫病の歷史を見ますれば、人間の敗北した有樣が歷然と分かつて居ります。それはさうでありませう、これでは眞の敵に包圍され、否咽喉を掻かれながら、それにも氣がつかずに、遙向ふの藁人形に向て砲彈を注いでゐるやうなものでありますから、勝てる筈がありません。種々の疫病が押寄せて流行致しますと、これは神樣の怒に觸れたのである、或は惡靈の祟であると稱して、これに對しては御祈禱やら種々奇怪な禁厭などをして、その難を免れやうと努めたのでありますが少しも效驗がない、屢々一國或は一種族が全滅する程の大敗を取つたのであります。それが近年に至て漸く神樣の惡意でもなければ、惡魔の仕業でもない、全く下等な黴菌の仕業であることが分かつて來たのであります。斯樣に敵を見違へては戰も何もあつた

ものではありません、敗北するのも尤な次第であります。

それで只今では敵の何者であるかゞ分かりましたが吾々がこれと鬪つて勝を制しますのには、前に申します通り、彼を知り、己を知ることが何よりも大事でありますから、これより敵兵の性質、その武器、戰術等の概略をお話致しまして、これに對する吾が衞生軍の軍備、戰略を述べながら目下の戰況を報道致す積りで御座います。

吾々に仇をする敵の中には種々樣々のものが居りまして、條蟲、疥癬蟲、「チストマ」、十二指腸蟲のやうな比較的形の大きな蟲も居れば、赤痢を起す「アメーバ」の如き單細胞の蟲も居る、それから顯微鏡で以て始めて認めることの出來る多數の細菌、又今日の顯微鏡或は今日の方法ではまだ姿を見現はすことの出來ない么微生體もあり、その大小形狀の千差萬別なることは迚も歩騎砲工位のものではない、而してその性能も實に種々で、日光や濕度の關係に對しても強いものも弱いものもあり、或は酸素の好きなもの、嫌なもの又は何方でも好いものと云ふ具合に色々な性質のものがあります。それから又各種類に依て侵入の道が定まつてゐる、例へばペストや破傷風などのやうに皮膚の小さな創傷から入込むものもあり、結核のやうに主として呼吸の道から侵入して行くものもあり、又赤痢や窒扶斯などの如く消化器の大街道を進軍の道とするものもあると云ふ風で、その攻擊法は色々であります。それから野砲、山砲、攻城砲と云ふやうに、肺臟、肝臟、脾臟等の如き一部分を狙つて大破壞を起さしむるものもある、例へば結核とか「チストマ」と云ふやうなものは是である。それから破傷風とか狂犬病と云ふやうな地雷火の如きものもある、即ち僅かに貝殼で足に創をしたとか、薄の葉で手の皮が切れたとか云ふ至つて小さな傷で、別に氣にも止めず、創痕も既に無くなつたやうな時分に、急に恐るべき猛烈な症狀を發する、狂犬病もその通り、只一寸犬の齒の痕がついた位で、既

に治癒て仕舞つたと思ふ頃に甚しい狂犬病特有の病状が現はれる、而して大抵生命を奪はなければ止まぬと云ふ、先づ地雷火のやうなものであります。「ペスト」の如きも矢張極小な蚤の刺した程の創から大地雷火を仕掛けるのであります。それから又赤痢、虎列剌、窒扶斯など丶云ふものは飲食物と共に兵站部に紛れ込むで毒を仕込む、即ち腸に到つて非常に繁殖して、毒物を製造して全身を殺すのであります。その外又天然痘、發疹窒扶斯と云ふやうなものは、今日吾々はまだその敵の姿を認めることが出來ない、痲疹、猩紅熱等もさうである、敵の正體を見屆けることが出來ない、顯微鏡と云ふ有力な望遠鏡でも見出すことが出來ない、而かも此種の敵兵は恰も機關銃を有して居るもの丶如く、一度襲擊して來ると恐るべき勢で以て非常に多數の人を斃すのであります。それから又彼等の中には飛行機を利用するものがある、即ち昆蟲、就中蠅に乘て來て飲食物にその爆彈を投ずるのである、これが最も恐ろしいのであります。彼の「マラリヤ」、即ち瘧の如きも一種の蚊を飛行機としてその病原物を吾々の身體内に投ずる、即ち蚊が嘴を皮膚に突込むで、その病毒を注射するので、これは寧ろ魚形水雷にも比すべきものであります。その他彼等黴菌軍の性質及び攻擊方法は其種々で殆ど端倪すべからざるものがあります。

扠て斯の如き敵兵に對して吾々は今日如何なる防禦法を講じて居るか、又何う云ふ風に策戰計畫を立てて彼等を攻擊し撲滅しなければならぬかと申しますと、これは先づ第一に戒嚴令を布いて、嚴重に外敵を監視しなければなりませぬ、即ち「ペスト」或は虎列剌の如きものが、その本營所在地たる印度を發して香港あたりを侵してゐると云ふ通報が、向にゐる防疫官が來て直ぐ官報にも出る、さうすると、平素から注意して居る海港檢疫が非常に嚴重になつて來て少しでも疑はしい荷物は決して陸揚させない、人間も一々健康診斷を行つて、怪しい者は上陸を許さない、而して危險と認めたものは一定時日間隔離し、

消毒し、全く安全と認めた上でなければ國内に入れませぬ、この方法で以て疫軍の國境侵入を喰上めますが、斯の如く致しましても尚は病魔の間諜が國内に忍込むで、荒れ廻ることが屢〻あります。

次には清掃で、敵が押寄せて來ても居たゝまらぬやうに森や林を截拂つて射界を清掃する、即ち大掃除を行ひ、大清潔法を施して、凡て不潔なものを取除き、家の内も十分日光と空氣を通すやうに致します、斯うして置けば敵軍も容易に寄つくことが出來ませぬ。

それから敵兵たる黴菌共は水路より吾々を攻めて來ることが多い、赤痢、虎列剌、窒扶斯等は何れも大抵水路を經て侵入して來ますから、飲料水は勿論のこと洗面水でも洗濯水でも疑はしい水は凡て一旦煮沸して用ひなければなりませぬ、如何なる獰猛の敵兵も煮られては堪りませぬ。

それから最も恐るべきものは前に申しました黴菌軍用の飛行機たる蠅で御座います、これが無数の爆弾を搭載して來て飲食物を目標にして投つけます、即ち窒扶斯菌や虎列剌菌を足に著けて來ては食物に塗りつける、その食物を食ると忽ち病氣に罹るのでありますから、吾々はこの飛行機の格納庫なる、芥塵箱、厩舍等を清潔にし、總て屋敷の内に蠅の發生しないやうに注意し、臺所や食堂に飛込めぬやうな工夫をし、若しこの飛行機が臺所や食堂の空に現はれたならば飲食物の上に降らぬ先に打留めなければなりませぬ、若し既に食物の上に降りましたならば、その食物は勿體無いやうでも生命に係はる危險があるものと看做して棄てなければなりませぬ、物に依ては少くとも確かに蠅の止まつた部分だけは棄てなければなりませぬ。これをもし惜むならば、それは眞に蠅よりも意地のきたない人と云はなければなりませぬ、或は敵の與へる毒饅頭を知りつゝ喰ふ愚人と謂はなければなりませぬ。

それから玆に一名の急性傳染病患者が發生致しますと、それは恰も地雷火或は水雷の如きもので、患

者の身體は無論の事、その排泄物、分泌物總て危險で、室內全般に危くなります。そこで此の場合には所謂掃海して敷設水雷を取排ふやうに患者を隔離しその患者の衣類、臥牀、使用器物一切並に室內隈なく消毒法を行ふのであります。

更に又肺「ペスト」、肺結核の如きは、近距離の吹矢の如きもので、患者と對坐して居る時に、その呼氣、特に咳嗽に依て小さな唾液の飛沫が口の內に飛込む、斯樣なことから傳染するのであります、故に可成結核患者に近寄らぬやうに、若し止むを得ず話をする時にも能くこの事を心得て、患者の唾液を吹込まれぬやうに三尺以上も離れて注意して對談するやうに致し度いものであります。肺結核は又これよりも患者の喀痰が乾燥して塵埃と共に飛散して人の呼吸器內に這入り、それより漸次肺を破壞して行く場合が多いやうである、要塞戰で地下に進路を堀開するやうなものであります。故に結核病者は成るべく空氣の好い療養所のやうな所に移し、その喀痰は必ず一定の痰壺に吐き、石炭酸水の如き消毒液の中で結核菌が悉く死滅するやうに致さねばなりませぬ、假令死なぬまでも痰が乾かなければ結核菌は飛びませぬから、唾壺の內には少なくとも水を入れて置くことが必要であります。肺「ペスト」に至ては、これは患者の呼氣に依て傳染しますから、絕對的に患者の室內に入つても可かぬ、若し職務上の關係から患者に接しなければならぬやうな場合には必ず口や鼻を覆ふことが必要であります。

斯樣な方針で以て公私の衞生上の注意を致しまするならば、大體外から攻めて來る黴菌軍を防禦することが出來る譯でありますが、何にせよ大部分は目に視ることの出來ぬ敵である、而してその繁殖力は非常なもので、獨逸が僅かに五日間で四百萬の兵員を國境に送り出したと云ふ位のものではありませぬ、一日の中に何百、何千萬、否とても數へることの出來ぬ程多數の黴菌が增員する、而かも皆新銳の精兵が立所に出現して續々補充增員される、且つそ

の攻擊法は前に申します通り實に千變萬化でありますから、如何に嚴重に防備をしましても、その防禦線を破つて本營を衝く場合がある、卽ち人體を侵すことがあります。

然し茲に敵軍が本營に殺到する前に第二の防禦陣地があります、それは卽ち皮膚と云ふ鐵條網であります、これが健全である以上は如何なる敵兵と雖も容易に本營まで侵すことは出來ない、然るに極小さな殆ど目で認めることの出來ないやうな創でもあれば既に危險である、「ペスト」でも、破傷風でも其處から侵入するのであります、故に皮膚を健全に保ち、小さな創傷、皮の剝げた位のことでも注意して早く治すことが必要であります。

それでは此等の病原菌が人體內に入れば、忽ちそれで本營が潰えて仕舞ふか、或は落城して仕舞ふかと申しますと、なか／＼さうでは無い、人體は極めて巧妙に出來てゐる堅城であります。例へば公私衞生の防禦線を破つて口の大木戶より虎列剌菌が攻め入つたと致しましても、それが食道を通過して胃腑に到着致しますと、そこには鹽酸と云ふものが湧出て虎列剌菌を殺して仕舞ふのであります、故に胃が健康である以上は容易に虎列剌にも負けませぬ、所が暴飮暴食をし、その他の不攝生に依て胃が弱はつて居りますと、虎列剌菌は平氣で胃を通過して、その目的地たる腸に達し、此處に陣地を構へて非常な勢で繁殖し、盛に毒物を製造する、それでも尙ほ人體の城內では急に吐瀉法を講じて、その敵軍や毒藥を外に驅逐致しますが、斯うなつては大抵間に合はずして哀れ落城の運命に陷ることが多いのであります。單に口の大木戶より飮食物に乘じて攻め入る所の虎列剌、赤痢、窒扶斯等に對してのみではない、鼻或は口より空氣に乘じて呼吸道を經由して肺を侵す所の結核の如きものに對しても、人體の城內には防禦戰の用意がしてありまして容易には侵されませぬ、卽ち血液の中には白血球と云ふ常備兵が居りまして、外から這入つて來た怪しい者は之を捕虜にし

て食つて仕舞ふ、それから又凝集素と云ふものがありまして、黴菌共を固めて働けなくして仕舞ふ、更に溶解素と云ふものがあつて、黴菌共を溶かして仕舞ふのであります。斯う云ふ風に何れの敵が外から侵入して來ましても此等の城内防備が整つて居りますから、容易なことでは落城しないやうになつて居るのであります。彼の種痘をして天然痘を豫防し、實扶垤里の血清注射に依て實扶垤里を治すと云ふやうな事は皆外から人工的に城内防備軍に援勢する方法なのであります。それ故に公衆衛生が行屆き、個人衛生が遺憾なく行はれますならば、黴菌軍に直接に襲はるゝことは先づ無い筈であります、その上只今申します通り、身體内には外から侵入して來る所の敵に對して、それ〴〵有力な防備が出來て居りますから、自分で不攝生なことをしてこの防備を破壞しない限りは頗る安全なものであります。更に吾々は尚ほ一層これ等の防備軍を強くする爲に、平素の生活法を衛生的にし、十分榮養物を取り、成るべく新鮮の空氣と日光の中に盛に働くことが必要であります。斯樣に致しますならば、吾々は衛生上の戰爭に於て何時も黴菌軍に打勝ち、結核であらうが窒扶斯であらうが、必ずこれを掃蕩することが出來て、人類の爲に萬歳を唱ふることが出來やうと思ひます。

迷信と宗教と衛生

無病健全で長命する位人間に取つて望ましく亦有難い事はない。只夫れが我等に望ましい幸福だと云ふのみならず、是れやがて我等の此世に生れ出でた所詮の意義を完うする所以じや。健康であればある丈け克く骨を折て社會の善事に盡力する事が出來、長く生きれば生きる程長く人類の福祉增進の手傳ひもやれる譯で、つまり無病長命が人をして其自個の天からうけた眞價を發揮せしむる唯一の資本と云ふべきであらう。此資本を聊か澁滯なく流用運轉せしむ

る道として示された天の法則が即ち衛生と云ふ事じや。だから、衛生の法を辨へ且つ之を守るのは取りも直さず天に事ふる人間の務じや。抑も此衛生の道と云ふのは人身生理の法則に基づき夫れから割り出した眞理じやに因つて、假りにも其眞理に反した仕方を改めず尙ほ且つ健康を維持し、はた之を恢復し得らるゝ様にでも考へたら、啻に其目的を遂しないのみならず、天に對して反逆を敢てする事になるから恐れた上にも惶れて、大に愼しまねばならぬ事じや。我等もし幸にして健康を與へられて居るなら、之を失はないやうに續けて行くに道があり、不幸にして疾病に囚はれたら之を解脫する亦自づから法があるのじや。其道によらず、其法に背いて五體の安全を期せやうなど云ふ蟲のよい無理な注文は、第一天が御聞き屆けになる筈の事でない。

一體人間の身體は頭の毛から足の爪までこと〴〵く天の御所有物で、人間の自分勝手にしてよい部分と云ふは寸分も無い、夫れを何だか我物顏に取り扱うとするのが抑も誤りの始めじや。人身が天の物であればこそ、天は其法則を以て適宜に之を保護し玉ふのじや。其健康を保たしむる爲めには必要に應じて衣食住の材料を給し、其病患を治療せしめ玉はん爲めに藥石醫術の道を示し玉ふのじや。然るに世の中の人多くは此深い宗敎的の理に暗く、健康の時は保護冥加の天恩を忘れて、其健康をよい事に、身體を己が勝手に使かひ、また之をぞんざいに取り扱つた結果、一たび病魔におかさるれば、徒らに天を怨み世をはかなみ、はては藥石醫療の效能をさへ疑つて之を廢し、東に迷ひ西に惑ひ、遂には狐狸妖魔の類に迄祈願して病苦遠離の利益に與からん事を求むるに至るは、なんと憐れむ可く嘆く可き事では無いか。夫れが無智蒙昧な野蠻人衆のみならまだしも、たとひ少しでも兎も角二十世紀文明の空氣を呼吸し、且つ東洋の第一等先進國民を以て自任する人士にして尙ほ且つ這の迷境を脫するを得ざる亡者が多いとは何と云ふ情無い事じやらう。此等は要するに

眞の宗教的信仰が無いからの事じや。いや其信仰を鼓吹すべき宗教家が先きに立つて此迷信の火をあふるのじやから堪らない、彼等は一代の師表、百姓の先達であるべき筈の身でありながら、天を信じて其法則に順ふ可き教を傳ふる代りに、やれ祈禱じやの御籤じやのとそんな事許りを専門にして、夫れでなくても百方迷ひ易すい病弱の不幸者を、益々迷ひの深みに誘ひ込んで居るのはいづれにしても言語同斷沙汰の限りと云はねばならぬ。

愚老の親戚にお艶と云つて相應に學文もあれば、意志も強く、一寸賢い婦人が居る當年二十八歳、生來至つて強壯な質であつたが、主人が事業に失敗した結果、家計の困難に落ち入つたのを苦にして精神を過度に勞した爲めか二三年來健康を損じ、所謂ぶらぶらの病氣に罹り、久しい事薬びんと親しむ中となつて居る。先頃其弟に當る萬作と云ふが來たから姉のお艶はどうしたど聞いて見ると、萬作の申すに、姉もあゝやつて長い事お醫者様通ひをして居ても、さつぱりはかぐ〳〵しく無いものだから、色々に氣をもみぬき、はては自分で自分を持ちあつかつて居たが、段々と、あれはよかろか、是れはどうだらうの迷ひ心から、馬鹿々々しくつまらない事にまで、聞くにまかせて、やつて見ると云ふ風になつた、が近頃は何だか妙な信神者に導かれて宗教の道には入り夫れは〳〵氣の狂つた様な凝り方である。と云ふから愚老も、夫れはまア何よりだ、人間宗教の無いのは丁度船に羅針盤の無いのと同じで、チョツとした嵐にでも直ぐまごつかねばならぬ。宗教の目的は疾苦災厄の逆境に處して能く安神立命の實地歩を獲得させるにあるのだから、あの憐れむ可き病貧窮の裏に呻吟する艶女の如きには、別して大なる慰藉、激勵となることでおらう。何にせよ結構な話じや。して艶女は、其信仰の力によつて目下の逆境に打勝ち、更らに希望に向つて奮闘の歩を進むる勇氣を得る様子かな、どうじやな。一體其宗教は何の教かね、佛教かな、基督教かな。佛教にも色々あり、同じア

ーメンにも種々な類があるのだから、一概に皆良いのばかりとも云へないが、あのハイカラ理窟屋さんの事だから、いづれ、禪學とか、神學とか云ふものに凝つたんじやらうと問ふて見ると。そんなに氣のきいたのなら文句はありませんけれどもね、を前置きに萬作が述べ立てた事實を聞いて流石の愚老も一驚を喫して、暫らくは開いた口がふさがらん始末じやつた。馬鹿々々しいなぞは遠くの昔し通り越した三ツも四ツも手前の峠で、こゝいらが、沙汰の限りと云ふ野原の眞中じやらう。萬作が笑止な顔で話した話しの要領はまアざッと次ぎの通りじや。

姉がは入つた教會と申しますのは、お驚きでせうが實は三平稻荷と云ふお稻荷様の講中なのです。四谷は簞笥町に昔から狐屋敷と云つて、人の嫌がる空地がありますが、今から五六年前何者のしわざか其空地の隅つこの方に小さな稻荷のほこらを建てたものです。處がどう云ふきつかけがあつた者か、此頃になつて俄かに流行り出し、講中が出來るやら、鳥居の數がふへるやら、參詣の群衆日夜たえず、遠く千葉、埼玉地方から迄押しかけて來ると云ふさはぎ、其信者に聞いて見ますと、其稻荷様の來歴なる物がまた甚だ珍でして、何でも今年の春の頃だとか申します、ある日一人の巡禮が市ケ谷の合力松の陰に腰打かけて暫らく憩んで居ると、夢ともなく現ともなく幾百と云ふ數を知らぬ白狐をひきつれた一人のけだかい白髮の老翁が現はれて、我こそは四谷簞笥町の三平稻荷である。もとは奥州安達ケ原に住んで居た三ッ尾の白狐であつたが、ある時三平と云ふ旅の商人が、安達ケ原のまん中で急病の爲めに惱み苦しんで居るのを見て、氣の毒と思つたが畜生の悲しさには、どうしてやる事も出來ず、只あれよ〳〵と地團駄をふむ許りであつた。其時以來如何にもして、凡ての病人を助くる神力を得たい、凡てが出來なければ責めては腰から上の病人丈けでも助け遣はし度いと思ひ、京都伏見の大稻荷に心願をこめ、二

百年の間飲ます食はずの苦行を積み、先き頃漸やく大願成就し、正三位三平稲荷の位に昇つた。腰から上の病に悩やむともがらにして、三七二十一日の間正直深信の心を以て朝夕二度お百度ふまば病難を除く事朝日の霜を消すが如く、延命利益を與ふること干潟に潮の寄する如くなるべし、ゆめ〳〵疑ふ事なかれと宣ふ御聲の有難さに、巡禮も信心肝に銘じて、三拜の頭を下げ、再び上げて見上げた時には早やお姿も白狐の形も見えなかつたと云ふ事です。こんな、あらたかなお話を、其講中の先達が辯に任かせて述べ立てるものですから、久しい病苦に迷信の下地は充分に出來て居る姉でせう、そこで以て行つておあつらへ通りの腰から上の病氣と來て居るのですもの堪りませんや、待つてましたと許り、ポンとはまつてお醫者様も藥瓶もそつちのけにしてのはまり様、本郷の根津三界から電車に乗つて朝夕二度の四谷通ひ、夫れに最も可笑しい事には、參る度にお賽錢として五厘銅貨三枚と九十五粒のお米とを持つて行くのですが、夫れが何の爲めになる事なのか、全く分からないのです。

何と云ふ淺間しい迷ひかたゞらう。元來あの子は嘉永生れの愚老などゝは違つて、明治も二十年たつた後の生れ丈けに、教育も一通りはあり理窟も相應に分かる女だのに、夫れでも病魔の誘惑には打勝てなかつたと見えて、殆んど度する事も出來ない愚迷の子になつて了つたらしい。是れ畢竟して世界及び人生に對する、眞の觀念、即ち宗教的信仰がないからの話じや。また萬作の云ふ處によると、彼女の迷ひ初めたのは昨年の秋頃からの事じやさうで、九星がどうの方角がこうのと云ひ覺ぼえたのが初まりで、其れからと云ふもの三日にあげず醫者を取りかへたり、自分で腹藥の時を變へたりして居たが、段々そんな事がかうじて來てはやれ何處の不動様のお告げの妙藥だとか、または彼處の弘法様の名灸だとか云ふ様な事を聞き出しては出來ない中から無理さんだ

んをして迄一度や二度づゝは試みて見たものださうだ。最近彼の三平稲荷に凝り出してからは、醫者にかゝつたり、藥をのんだりして居て只片手間にお稲荷様を念ずるのは、人力を頼りて神力を疑ふ樣で甚だ失禮に當ると云ふので、この十四五日と云ふ者、全く醫者の所に通はず、腹藥も止めてしまつた故か、顔色も前より一増惡るく、神經の如き著して弱つてともすれば精神に異狀を來たしつゝあるのでは無からうかと、はたで心配する程であるとの事じや。こんな甚だしい迷信の沙汰でも、萬作に云はせると、矢張是れでお龜は宗教に入つたのじや相な。

何處に安神立命があり、また其どこに慰耤奬勵があるのであらう。が併し此迷信の徑路に立つ者、決してお龜女一人許りではない。滔々たる社會の人、大方は皆お龜の中間じや。彼等の科學と、彼等の議論とに權威のあるのは只無病息災の時許りである。卒然として運命の危險がまつ黑な雲の樣に彼等の頭上に掩ひかぶさつて、生か死か、存か亡かの痛切な大疑問とか彼等の目の前に掛けらるゝ時、周章狼狽の餘、忽ち迷信の谷に逃げ込むの外道なきことお龜女の如くならざるを得る者が果して幾人あるであらう。若し之れありとするなら、其人は確かに信仰の人でなからねばならぬ、天を信じて、其法則を遵奉する人でなからねばなるまいと、愚老は思ふのじやかの。

總じて眞の信仰ある人と云ふのは、前にも云つた樣に自分の身體を自分の物と思はず、却て天からの預かり物として大切に取り扱ふ人の事じや。既に天からの預り物を保護するのじやから、天のお定めになつた法則に從つて衞生の道を重んじて行くべきは申す迄も無い。健康の日に衞生を重んずる人ならば、疾病の時にも亦天則に基いて其治療に力を盡くすの人たるに違ひはあるまい。斯の如く天の御法則によつて健康を保ち、また其御法則を以つて病を癒す樣につとむる故に、健康にも病牀にも一定不動の信念中に安住する事が出來るのじや。古人も

君子は青天に對して驚く、雷霆を聞いて驚かず、平地を蹈んで畏る、風波を蹈んで畏れず。

と問はれたが、我らも亦無病息災の日に畏れ惶れて天地大靈の仰せのまゝに衛生の法を遵奉する故、たとひ病氣に罹るとも別段畏れ驚くの要を見ず、よし死の影が眼前三寸の間に迫つて來る事があつても、泰然自若、醫藥療養の途に於て人事の盡くせる丈けを盡くして徐ろに天命を俟つ事が出來るのである、生既に天の物、死豈に天意の外に出で得やう、既に死生を以て全く天の物だと打任かせ奉つた人の信念だから、雷霆も之を驚かす能はず、風浪も之を畏れしむる事が出來ないのじや。萬作の眼には迷信も宗教であるけれども、眞の宗教には決して迷信の混入を許さない。

古より深信高德であつて、而かも貧窮に病弱の宗教家が少くない、併し彼等は敢て病氣に罹つたがために信念を起したのでなく、むしろ病氣に罹つても其信仰を失はなかつたのである。天理教のお水を以て藥石に代用し、御賓頭盧樣にマッサージの神力ある事を疑はざるを以て宗教的信仰であるが如く云ふ者は固より宗教の何ものたるかを知らざるの言じや。否眞の宗教家は、常に衛生の道を重んじて此天佑の五體を大事に保護したものじや。其實證を逐一に舉げて見度いが餘白がないから止むを得ぬ。只僅かに佛教中禪宗諸德の衛生に關する教訓丈けを揭げて一先づ筆を擱く事にしやう。

○身心を澡浴して香油をぬり、塵穢を除くは第一の佛法なり。新淨の衣を著するは一つの淨法なり。塵穢を澡浴し香油を身に塗るに內外倶に淨かるべし。

○佛法に必ず灌洗の法定まれり。或は身を洗ひ心を洗ひ、足を洗ひ面を洗ひ目を洗ひ口を洗ひ、大小二行を洗ひ、手を洗ひ鉢盂を洗ひ袈裟を洗ひ頭を洗ふ、此等皆三世諸佛諸祖の正法なり。

○垢衣と舊衣とは灌洗補治して垢膩を去て淨潔ならしめて之を著用すべし。垢膩を去らざれば身冷て

癡發る。又障道の因縁と爲る。
○十指の爪をきるべし十指とは左右の兩手の指の爪なり、足指の爪同じくきるべし、經に云く爪の長さ若し一麥ばかりなれば罪を得るなり。
○三分の中に二分を食して一分を餘すべし。
○常に目を濯ひ足を洗ひ身心閑靜にして威儀齊整なるべし。

精神の怪我

吾々の日常の生活に於て、或は顔つきにより、或は目つきにより、又は或る素振により或は言葉に依て或人から傷けられると云ふことがあります。但しこれは外には創がつかない、目で認められるやうな創痕も殘りません、精神内部の外傷でありまして、趣味、廉恥心、榮譽心、又一般に心情を傷けられるのであります。槪して自分の思想感情に合はない他の思想觀念が入込まうと致しますと、吾々の精神はこれに對して恰も吾々の財產を略奪せんとして家宅に侵入する所の盜賊を防ぐやうに抵抗するのであります。例へば美術展覽會などに參りまして、ある製作品の前に立て、それを嘆美し、賞鑑することもなく、忽ち他に振向ひて仕舞ふ、これはその色彩、意匠、畫風が氣にくはぬ、卽ち吾々の美術心を傷つけるからであります。又銀行頭取が株主の不信任を受けると云ふやうな場合には、その腦裏の觀念界に造られてゐる榮譽心に大穴があくのであります。これは單に他人の一瞥に由て既に十分榮譽心を傷けらるゝに足ることがあります。美術家などが全心全力を罩めて製作したもので自分には天晴の傑作と信じてゐるものを、審査官などの判定に依て落第し、種々の惡評を受けるやうな場合には、その美術家の心情は、決鬪をして面體に切つけられたよりも甚しい重傷を負ふのであります。

吾々の日常の生活に於ては。到る處に吾々の自我に對して鐵砲が向けられて居る。屋根から瓦が落ちて

頭に傷つけるとか或は墜落して衝突、打撲又は切創を蒙むると云ふやうなことは比較的稀でありまするが、精神の外傷に至ては四六時中吾々の生活を脅して居るのであります。これは老若男女を選ばず、吾々の自我と云ふものは毎日何等かの形式に於て精神的襲撃を受けて居る、例へば近親のものゝ疾病、死亡、家族の不和、財政上の不如意、何れも吾々の心情を痛め、精神を傷くる種とならぬでありませうか。

人に依て種々の事がその感情生活の上に色々の感作を及ぼすものであると云ふことは經驗上明かなことでありまして、小兒は母親には平氣で別れても自分の可愛がつてゐる人形を取られると非常に悲むと云ふやうなことがあります。これと同じやうな譯で、老人が自分の近親者が死亡するのを見れば、さぞかし悲痛に堪へぬであらうと考へられますが、一向平氣でゐる場合が多いのであります、要するに、普通の人の心と云ふものは、何ものをも恐れぬ獅子が、小さな鼠を見て慄上ると同樣で、何か一つ大きな打撃が來ると、それに對しては割合に平氣でも寧ろ小さな陰言や皮肉な批難攻撃には堪へぬやうなものであります。

一人の人間が種々の精神的刺戟に對して種々に反應致しますが、又同一の刺戟に對しても人に依てその反應が各々別である、例へば或人は迚も血の流れる所を見るに堪へない、僅かの出血でも、それを見ると顔色が變つて戰慄する、甚しきは卒倒する。これに反して麻醉もかけずに泰然として手足の切斷術を受けた人があつたと云ひますが、今日でも間々斯樣な人があります。

前に小さな鼠を見て慄上ると申しましたが、殊に御婦人方に於ては、「ソレ鼠が居る」とか「ソレ毛蟲が──」など丶云ふと、非常な騒をなさる方が少くない、これは一つは御愛嬌に黄い聲を出して騒ぐこともありませうが、實際甚しく恐怖する人があります、婦人に限らず大の髭男でも或は蚯蚓を見て蒼白

くなる人があり又は小さな蜘蛛を見て慄上ると云ふ人がありますが、これは幼時の教育の缺點に罪があるものと思はなければなりませぬ。斯樣なことは何でもないやうなことでありますが、鼠を見て驚愕した後で一日中神經的に慄戰が止まらなかつたなどゝ云ふ人がありますから、決して馬鹿にはなりませぬ。

譴責される或は叱られると云ふことも人に依てその感じが大變異ます、學校の先生は、能くその受持の生徒を知つてゐますが、生徒の中には幾ら叱られても平氣なものがあります、所謂蛙に水を灌ける位の效能しか無いものであるかと思ふと、又一方には一寸小言を云はれても殆ど氣が顚倒して仕舞ふやうなものもあります。非難とか譴責とか云ふやうな精神的の刑罰が心に當つたときに、外に表はれる第一の徴候は、先づ通常赤面することであります、それから目に涙が出て參ります。然し學校では隨分耐へも致しませうが、その代り家に歸ると一時に爆發するのであります。斯樣な小供の心情は寫眞の種板の如く過敏なもので、極僅かの精神的影響に對しても非常に激しく反應し、その印象が後まで續くのであります、所謂小兒の肝に銘ずるので、往々これが爲に神經力が消耗され、怏々として樂ます、睡眠も妨げられる、特にその甚しい場合になりますと、小兒がこれが爲に厭世觀を起し、自殺を企てた例さへもあるのであります。此の如き過敏な性質の小兒に對しては、身體並に精神を強健に鍛錬せんが爲に特に適切な教育を施すことが必要であります。

尙ほ後年に至ても、名譽心を害せられ、或は虛榮心を挫かれて、その創痕が一生涯痛むと云ふやうな機會も屢ゝあります、例へば青雲の志を懷いて、或地位を羨望したが何うしても本望を達することが出來なかつたとか、或は自分の望をかけた勳章或は戀人が他の人の手に落ちたと云ふやうな場合には、それは一種の精神的の創痕となつて、長い間心の痛をなすものである、而してこれが爲に元來快濶

な性質の人であつたのが陰鬱な人となり。活潑であつた人が誠に意氣地のない愚癡な人間になり、強健であつた人が病弱の身となると云ふ風に、その人の性質が一變して仕舞ふことがあります。

憂悲苦惱

憂悲苦惱は人間の生活に如何なる關係を及ぼすものであるかと申しますと、例へば工業上の不振凶荒を來して大都會に於て幾萬と云ふ職工が解雇され職を失ふと云ふやうなことが屢々ありますが、斯う云ふ場合になりますと、今迄その日暮しをしてゐたものは迚も家庭を作つて行くことは出來なくなります、先づ早速飢と寒さとが見舞ふ、然し飢寒はまだ慘事の始めに過ぎませぬが、なか／＼適當の就職口も見付からず、已むを得ずぶら／＼致して居りますと、そこに不平不滿が起る、毎日妻子のみじめな有樣を見る、爲すこともなく家に居れば、自然家族の間にいさかひが起る、明日の米は何うするか、斯樣な狀態であれば飢寒の爲に自然病人も出來る、益々以て困窮の狀態に陷る、これを何んとかして行かなければならぬと考ふる時は、その本人の腦の內には精神の暴風雨が吹荒むで、遂に身體を破滅するにも至るのであります、これ卽ち瘋狂院の漸次增大し擴張さるゝ所以で、監獄や養育院もこれに關連して繁昌して參ります。榮養の十分な腦であれば大抵の打擊に對して堪得ますけれども、饑寒に迫られてゐる者はこれに抵抗する力が無くなるのであります。一體饑寒だけでも旣に健康と病氣との境目に立つてゐるのでありますから、そこに猛烈な精神の暴風雨が起れば心の小舟の覆るは別に不思議もない譯で、疾病と失望とは、その瘦細つた手を伸べて或はピストルを握り、頸の回に紐を結ぶにも至るのであります。

尙ほ此の如き際に屢々用ひられる苦しまぎれの手段は酒を飮むことであります、所謂燒飮と云ふことでありまして、成程これは一時心を大きくし氣を強く致しますが、遂には輕卒になり亂暴になり、益々妻子眷族の苦惱を增すに過ぎませぬ。

此等は何れも物質的の困窮より精神を破壞する人生の慘事でありますが、然しこれは必ずしも貧窮の人のみを襲ふのではない、金殿玉樓の中にも憂悲苦惱は種々の姿を以て忍入り、同じく富貴の人の心を惱ますのであります、只牆壁の高く厚きが爲にその慘狀は比較的外に漏れぬのみで、その內は眞に火宅の如きものが決して少なくない、財は有れども精神の苦惱は如何ともし難いものがあつて、その神經を破壞さするのであります。

破れたる心

失望落膽は果して避くべからざる原因に由るか或は全く自個の罪或は輕卒の結果であるかの問題は別として、兎も角も甚しく失望落膽せる人の有樣は實に氣の毒なものであります、これは殊に婦人に多い、或は失戀或は子を失へる人の悲痛は往々一生涯その心の喪服を脫がぬことがある、卽ち過去の悲しい物語に全精神が固著し、過去の一點に粘り著いて仕舞つて、それだけで一種の人生觀を作るのであります、斯う云ふ人は一見實に眞面目な感心な人のやうでありますが、吾々はその自ら心を苦しめ、わざわざ過去の最も悲しい事を思出して、それに全心を支配させ、自分で自分を苦める愚を憐むものである。今この精神狀態を詳細に分析することは差措きまして、要するにこれは一種の觀念の方向を他の觀念と交換する能力が缺けて居るのであります、第二にはこの觀念の交換をする、卽ち氣を轉じやうと云ふ意志の力が缺けて居るのであります。斯う云ふ人——病人の周圍に居る人が、物の分かつた精神の確固たる人であれば、この憐むべきものを救ひ得る望がある、卽ち然るべき醫師と相談協力して漸次その精神狀態を變化せしめることが出來るのであります。

(以下次號)

空氣と日光 (承前)

休暇敎養所

都會、殊に大都會の中に住むで居りますと、家の海、

死の浪、煙突の煤、この紅塵の衢より出て白砂青松の海濱又は蒼々たる翠巒、潺々たる溪谷の間に逍遥し、少なくとも郊外の森林、草徑を散歩して清爽の空氣を呼吸し、熙々たる日光を浴びたいと云ふ氣は自然に起ります、必しも文人墨客、風雅の心よりのみではない、恐らくは生理的或は本能的に吾々の健康上の必要からも斯う云ふ希望要求が自ら起るのであらうと思ひます。それで近年は日曜日とか祭日とかには郊外散歩をする人が多くなりました。又小學校でも成るべく小兒を郊外に連れ出して新鮮な空氣と日光の中に遊戯せしめ、自然を樂むと同時に自然科學的の教授を試むることが行はれて參りましたが、これは誠に結構なことで、非常に必要なことゝ思ひますが、まだなか〳〵十分の程度には行はれないのであります。然し日光と空氣とは、老幼貧富を問はず、人間の生活養素として最も大切なものであると云ふことは漸次世間一般の人も知つて參りましたので、都會の内に於きましても出來得るだけ空氣を良くし、光線を十分にする爲に種々衛生的の注意をするやうになりましたが、特に近年歐羅巴諸國で盛に行はるゝやうになりました彼の休暇殖民或は休日教養所と云ふやうなものは、右の趣旨に由て學校の休暇、殊に長い夏期休暇を利用して小兒を海濱、山間又は森林等の氣候もよく空氣の良い所に連れて參りまして、身體並に精神の健全なる發育を促す爲に、專ら衛生上の見地から衣服、食物は勿論のこと其他一般の起居に就ても小兒の健康の爲に出來得るだけ合理的に懇篤の世話をし、小兒を苦しめず極めて自然に身神の教養に努むるのでありまして、獨逸あたりで行はれて居るこの休暇殖民フエリエンコロニー或はフエリエンハイムと云ふものゝ成績を見ますると、頗る良い結果が現はれて居ります。我邦に於きましても漸く兩三年前より、この方法の有益なことが認められまして、本年の夏も東京、京都及び大阪に於て此種の企が實行されましたが誠に結構なことゝ思ひます、依て今その概況を報道して益々盛

に行はれるやうに希望致します。

東京では大日本學校衛生協會理事井上晴之助及び本郷區の開業醫赤井直忠氏の發起で、東京市本郷區内十一個小學校中より四十一名の兒童を選拔致しまして、八月一日より三週間相州鎌倉に於て林間教授を行ひました、而して毎日午前五時に起牀し、洗面の後裏手なる能見山の頂上の古松老杉欝蒼なる間に於て復習をなし、七時に朝餐を終り、八時半より九時半に至る間、各教師に導かれて附近の名勝古蹟の見學をなし、午後は二時より約四十分間由比ヶ濱に於て海水浴を兼ねて水泳の練習を爲さしめ、夜間は時期をはかつて屡々講話を試み、體育の傍一般の教育に注意致しましたが、小兒等は毎日嬉々として元氣よくその所定の期日を終り、同月二十一日豫想以上の好成績を收めて歸京致しました、滯在中は一名の病者もなく、體重は少なきも八十匁、多きものは一貫三百六十匁、全體の兒童では平均三百五十六匁の體重増加を見たと云ふことであります。

○大阪市教育會では市内各小學校第五學年以上の男生徒中より希望者を募り、八月二日より一週間大和芳野山で山林學校を組織し、時々芳野小學校を利用して講話をし、又種々の娯樂を催しましたが百五十名からの志望者があつて、これ亦頗る佳良の結果を得たと云ふことであります。

此外にも大阪市内の二三の小學校では海邊或は山間に學舍を設けて一定時日間兒童を收容して休養の目的を遂したと云ふことでありますが、その中でも東區の汎愛小學校にては第三學年以上の有志者を募り、八月十一日より二週間、府下泉南郡南近義村にて臨海學舍を組織し、南區大寶小學校にては第五六學年より有志者を募り八月三日より十七日まで泉南郡淡輪村西教寺を宿舍として臨海學校を組織し、同區精華小學校にては第四學年以上より希望者を募り八月三日より一週間、紀州高野山金剛三昧院を宿舍として山林學舍を組織し、同

區御津小學校にても第四學年以上の兒童七十餘名八月一日より十日間、紀州高野山地藏院を宿舍とし山林學校を組織し、同區渥美小學校にては第四學年以上の希望者百餘名、八月一日より三日間泉南郡樽井村湖月樓を宿舍として臨海學舍を開き、其他北區蘆分小學校にては第五學年以上の兒童にて豐能郡秦野村に於て山林學校を設け、何れも豫期以上の好結果を得たと申すことであります。

○京都市京極小學校にては兒童の早起と體育の奬勵方法として、休暇中每日午前五時より六時迄の間に鴨糺森に兒童を集め、敎師指揮の下に森蔭を散步せしめ、七時前解散することとなし、同市尚德、菊濱、成德の三小學校にては、生徒を每朝將軍塚に登らしめて體育の一助とし、銅駝小學校にては既に七月中旬より簡易なる林間敎授を開始し、その成績頗る良好であつたから、八月一日暑中休暇に入りても引續き之を實施したと云ふことであります。

○又大阪市の有隣、德風の二小學校は貧家の兒童を主として取扱へるが、その中より比較的身體弱き者八十名を選び、二十名づゝを十日間交代にて信貴山に林間敎授を開始し、午前五時起牀、森林中に深呼吸をなし、二十分乃至三十分間づゝ學科を授け、午後は一時間づゝ狀袋張りの作業をなし、放課後十數町の山を登りて大和川の淸流に水浴し又は近山に遠足することとありて、是亦頗る良成績を擧げたとのことであります。

斯樣に暫時の間に、兎も角も臨海學舍とか山林學舍とか林間學校とか云ふやうなものが試みられて、孰れも良好の成績を得たことは誠に悅ばしいことで、この成績に鑑みて來年度よりは一層盛にこのフエリエンコロニーが實行されるやうになることゝ信じますが、これは何人も贊成して我邦の兒童の健全なる發達を遂げるやうに助力され度いものであります。此外にも市内に出來得るだけ小兒の爲に安全なる遊場をこしらへてやり度いものであります、現に東京

市の如きは上野、芝、日比谷等の大公園の外にも幾多の小公園はありますが、迚も全市の兒童の爲には足りませぬ、矢張大部分は電車、自轉車、自働車等の織るが如き往來で浮足になつて遊んで居ります。それで人體の健全なる發育に缺くべからざる新鮮の空氣と日光との不足は、努めて郊外散步に依て之を補はなければなりません、この意味に於て小兒を野外の散步に連れて行くことは非常に宜しいことで、之に由て小兒の血液は良くなり、肺臟も十分に働き、全身の爲に無上の良藥となるのみならず、僞りなく誤なき正明の自然に觸れしむることは、凡て人工的、人爲的の都市中に生活してゐる小兒の爲には是非必要なる教育であります。

（以下次號）

育兒

子供の結核は如何して豫防するか

醫學士　竹内薫兵

子供には結核は無いと以前は思はれたのでありますが實際は隨分あるもので、又發しないまでも潛伏結核とか腺病質と云ふ樣な病氣となつて、十四五六七位の年頃になつて立派な結核となる事もいくらもある。結核と云ば治り惡くい病氣であるが子供の結核も治りは惡い方であるから出來る事なら前以て豫防したいではありませんか。

そこで子供の結核の豫防には如何したらよいかと云ふに一言に云へば其主旨は幼い間から成る丈け身體

の抵抗力を增して、身體を丈夫にする事に心懸けるが專一で、これには赤兒の食物は必ず母乳とし、飲み過ぎを成るべく避け、合理的な身體鍛錬法を行ひ、鼻感冒、咽頭の疾患、氣管枝加答兒にかゝる事を豫防し、各種の貧血を防ぎ、齒の養生を守る、其外新鮮な空氣を絶えず呼吸させる樣にし、又呼吸を練習させ、體操を適度に行はすと云つて終へばそれで盡きて居るが、中にこれが容易に行はるゝものでない。呼吸法だけで云つても種々な種類があつて、今日まで本になつて出版されてる丈でも隨分數は多い。例へば徒手呼吸法とか、亞鈴呼吸法、ステッキ體操法、手拭體操法とか云ふのは、名は體操であるが主旨は筋肉の發育よりもむしろ呼吸法にある事はやつて見れば直ぐに判る事である。然しこれまで注意しないが呼吸は必ず鼻でさせる事とするがよい。吸ふ息も呼氣も共に口は塞いだ儘で行るがよろしい、墺地利のホーフバウエルといふ人は鼻で呼吸すれば肺結核の豫防にもなりあらゆる運動を行ふより優ると云つて居ますが、私はさ程には思はないが、確かに效果のあるものであるから、鼻呼吸は大に奬勵すべきものと思ひます。

體操は子供にさせるのであるから成るべく簡單なのがよい。例へばこんなのはよからう。

一、兩手を腰へ置く。肩を上げたり下げたりする。上げる時に吸ひ、下げる時に呼氣。

二、兩手掌を合せて前へ突き出しそれから勢よく左右へ擴げ又勢よく手掌を合せる。此擴げる時に吸氣、呼氣の時に呼氣を行ふ。

三、兩手の掌を頭の上で打ち合はせ、それから又左右兩側へ眞直に下ろす。此打ち合はせる時に吸氣、下ろす時に呼氣。

四、兩手を腰にあて、身體を其儘後方へ反らす。此時息を吸ふ。身體を又元へ戻して眞直にする。此時に呼氣。

五、片方の手を腰へ、片方は脚の兩側に添ふて垂れて置く。手が腰にある方の側(身體を屈げる。そ

れと同時に他方の手を擧げて頭の上へ載せる。この時吸氣。屈げた身體を原位へ戻すと同時に頭の上の手をも原位に復す。この時に呼氣。
次には反對に腰へやつた手を頭へ載せる樣にして今の動作を繰り返す。
此動作は緩徐遣る方がよい。初めの間は五遍位繰り返し次第に數を增して十遍位にするがよろしい。
これは敢て珍らしいといふ譯ではないが徒手體操としては最も簡單で最も呼吸に具合がよいと思ふから特に選んだのであります。
結核を豫防しやうと思へば子供自身のみならず、其周圍の者にも注意しなければならぬ。殊に乳母などは隨分注意しなければならぬ。乳母が徵毒に罹つてるために子供が徵毒になつた事や、乳母が輕い結核に罹つていたのを知らずに雇つたところが子供に傳染してひどい結核になつたなどは珍らしい話ではない。
それから遊び仲間や下女下男、幼稚園や小學校へ行く樣になつたらば其保母や教師が結核に罹つてれば譯なく子供に傳染するから、かゝる職に在る人は注意の上にも注意が肝要である。親兄弟に結核があつた場合には子供を離すのは情に於て實に忍びないことであるが然し其情に絆されて居ると遠からず子供も其結核に罹つてる親兄弟と同じ運命に陷るから、前以て心を鬼にして早く離す方が却て子供の爲め又人道のためだと思ふのである。
我が國の親達は非常に子煩惱であるが、眞に將來子供の健康を保つには如何にしたらよいかと云ふ事には、餘り頭を費さぬのは一大缺點であらうと思ふ。例へば親達は家を建築する場合に自分達の居間、客間などは隨分大金を抛つのを吝まないが、子供の爲めに遊戯室を作つてやる人が幾人あるであらう。子供には子供の部屋が要る。其部屋は即ち遊戯室でなければならぬ。大きくなつて學校へ通ふ樣になつたならば机も本も硯も置くは致し方は無いが、一寸手をかければ直に片附く樣、極く簡單なものを少し

置く外には、成る可く何も置かないがよい。疊を敷くは關はないが成るべくは板敷としたい。疊の上へ毛布を敷いたり、絨緞を敷いたりする事は子供の室には控へたがよい。成るべく空氣を清潔にして置くべき部屋がこれがために不潔になる事一通りではないのである。這ひ廻つたり、飛び廻つたり、又何でも口へ入れる子供があつても少しも危險のない樣な設備をしなければならぬ。これは三歳位までの子供には是非とも心掛くべき事である。其後の年齢になれば無闇に口へ入れたり、這つたりする憂はないが可なり活潑な運動をする時代であるから部屋は疊の外成るべく何も置かないがよろしい。但し忘れてならぬ事は光線を成るべく十分に入れる樣に建てる事である。從て子供の結核豫防上から云へば彼の歌骨牌の如きは最惡な遊戯の一つである。

牛乳から結核が子供に傳染るといふのは畢竟牛が結核に罹つてる場合に其結核菌が牛乳の中に交つて之れを子供が飲むためである。これには議論のある事で、イヤ人の結核と牛の結核とは黴菌が異うから危險はないとか、イヤ差異があつても危險だとか、種種申ますが矢張り飲ませる場合には十分に殺菌して飲ませるに限るは申すまでもない。

冷水摩擦は效果のある方法には相違ないが幼い子供を無暗に水浴させると必ず害がある。成るべくは三歳以後に始めるがよい。

身體の鍛錬になるからといふので寒い風の吹く日に好んで外へ出し、又は暑い日に帽子も被らせないで外へ出したりする人もあるが所謂猪突主義である。無茶苦茶流とでも申すべし。鍛錬とは身體をいじめる事ではない。順を追ふて暖いものから次第に冷たくするはよし、いきなり冷氷の中へ身體を投げ込んだりする事は百害あつて一利なしである。

ツベルクリンを少しづゝ注射すると自然に結核に對する抵抗を生じて、よし結核菌に犯されても罹る樣な事はないと云ふが、むしろ十分の光線と清淨な空氣と溫和な氣候と而して榮養豐富な食物と潤澤に與

へる方が確實な豫防法であるであらう。

遺尿症の危險

遺尿症と申しますのは所謂寢小便のことでありますが、これが危險だとは大袈裟なやうでありますけれども、實際危險のことがあります。これは私もこれまで氣がつかずに居りましたから、讀者諸姉にも報道して御注意を願ふ次第であります、と云ふのは昨年ネブラスカに起つた事件でありますが、四歳の男の子が、寢小便をする癖のある兒であつたそうですが、貧家に育てられ。而かも繼父であつた、所で冬のさ中に暖を取るべき石炭が無くなつた、尤も少々の貯はあつたそうですが、大事にして焚かなかつたものと見えます。然るに一夜窻硝子の破れた所から氷のやうな冷たい風が吹込むで、室内に寢てゐるものゝ夜具が固く氷つて仕舞つて、この小兒の蒲團も氷つた、寢小便の爲めに濡れて居る所でありますから堪りませぬ、全くカチ〳〵する程氷つたのであります。そうしますと、それから五日程たつて子供の足の皮膚の色が變り、十日か十一日過ぎますと今日灰色がゝつてゐた足が急に眞赤になり、其處から腐れ始めたのであります。そこで始めて、これは棄て置けぬと云ふので獨逸人の醫者を二人まで頼みましたが、孰れも貧乏の爲めに彈つけられました。そこで仕方がなくつて、遂に市醫の厄介になりましたが。これは可かぬ、早速足を切斷しなければならぬと勸められましたけれども、これも既に手遲れで、哀れやこの小兒は。彼の氷つた夜から二十二日目にとう〳〵死亡して仕舞つたのであります。裁判所では、この繼親が子供に對して怠慢であつたと云ふことを確かめたものですから、子供を殺したも同樣のものとして判決を下したのであります。

これは實に一大社會問題でありまして、同所の貧民監督局では、この病兒の寢牀が氷になつてから二週間も過ぎて、漸く石炭を澤山呉れたと云ふことであ

ります が、實に悲慘な話であります。

我邦でも北海道から東北地方にかけて、冬は隨分寒さが烈しい、東京邊でも三四歳の小兒が小便に浸つてゐるのを寒晒しにしたならば確かに此の位の事が起るだらうと思はれます。幸ひ餘り斯樣な悲慘事を聞きませぬが、遺尿症のある小兒が濡れた蒲團の上に、一夜を過す場合には、既にそれだけでも十分健康に害がある。元來遺尿症のある小兒は大抵虛弱な小兒で、少なくとも神經質の小兒に多いのですが、その尿で濡れた蒲團の中に眠ることは益々身體に有害なるのみならず、種々の點から小兒の精神上にも惡影響を及ぼすものであります、況や繼親と繼子との關係に於ては、小兒の遺尿症は實に憐むべき病症であります。

遺尿症は原因の不明なものが多く、頗る治癒し難いものでありますが、若し遺尿症のある小兒があつたならば、譯の分つた醫師の診察を受け、その治療方針に從つて出來るだけの治療看護を試み、特にこれが爲に虛言を云ふとか、僻むとか云ふやうな惡癖に陷らぬやうに、精神上の惡影響を防ぐことが極めて大切であります。

それから右に擧げた例の如く、遺尿に濡れたもので寒氣の爲に氷り、その爲に甚しい凍傷を起し、遂に腐敗症を來し、手足を切斷しなければならぬやうなことになり、それも及ばずして遂に死亡したと云ふ實例があるのでありますから、假令斯樣に甚しい事にはならぬまでも、これから追々寒くなりますと、寒國に於ては餘程遺尿症の小兒に對する看護に注意しなければならぬことゝ思ひます。

離乳に就て（承前）

醫學士　宇都野研

離乳實行上の注意

扨いよ〳〵離乳を實行することゝなりましても、これは急に致しませんで、漸を追ふて行ふやうにしな

ければなりませぬ。

最初先づ陪食料として與へますものは何れも燃價に乏しいもので、我邦に於きましては好んでオモユ、オヂバ、オマジリ、薄い粥などを與へます、斯様な食品を最初は一日一回母乳に代へて與へます、それから一週間乃至二週間、季節によつては一二個月を經て更に一回分の母乳を廢して牛乳又は前に申しましたやうな食品を與へます、而してその食品に依て乳兒の身體に能く合ふかどうか、即ちその反應に注意して徐々に離乳を完了しなければなりません。

　母乳の閉止を暫く見合はすの必要

斯様に注意して離乳を實行し始めましても、往々何うかすると離乳の完了しない中に重き急性の榮養障碍を起すことがあります、この場合には是非又母乳が必要になりますから、その用心の爲めに、餘り早く母乳の分泌が止まつて仕舞はぬやうに氣をつける必要があります、實際重い榮養障碍になりますと、母乳でなければ殆ど治癒の見込がないからであります。

　母乳の分泌の早く止むのを防ぐ法

それでは母乳の分泌の早く止まつてしまふのを防ぐには何うすれば宜しいかと申しますと、次の如く離乳を履行すれば可い。

陪食料を與へる頃の乳兒は一日五回乃至六回位乳を飲むで居るのが普通でありますから、今例へば第三回目の母乳に代へてオモユを與へるとすれば、更に第四回目の母乳をオモユ又は牛乳を以て取換へますと、哺乳の間隔が大變長くなつて、分泌の量は漸次減少して參ります、それですから第三回目の哺乳に次で第五回目の哺乳を廢して、その代りに他の食品を與へるやうにすれば宜しい、故に斯様にして離乳を完了した時の食養は何うなるかと云ひますと、

	粥	牛乳
一日	二回	三回
一日	三回	二回
一回量	大約二百グラム	大約二百グラム

と云ふやうに、一日凡そ五回の食養と致します。

從來牛乳を用ひて居らなかつたものに、離乳の目的が初めて牛乳を與へます場合には、最初から全乳を與へても差支はありませぬが、先づ三分の二の牛乳に穀粉と糖、又はミルクフードのやうなものを加味して試むるが宜しいのであります。

離乳期の榮養障碍

哺乳兒が離乳期に際して往々救ふべからざる重篤の榮養障碍に陷ることがありますので、吾々小兒科醫もこれに就ては餘程心配致すことであります。一體この離乳と申しますことは、小兒榮養上一大革命でありまして、今迄母親の乳房から最も適當に最も自然に又最も安全なる榮養液を供給されてゐたものが、急にその性狀も異り、味も香も從來のものとは異り、又その攝取方法も母親の乳嘴を含むのとは違つて或はゴムの吸口よりし或は匙又は箸などを用ひて攝取するので、全然その面目を一新するに至りますから、往々最初の陪食料に對して鋭敏の反應を呈する、即ち小兒は牛乳やオモユのやうなものを嫌つてなか〳〵飲まないことがあります、然し母親並にその周圍の人々も意志が強固で、能く醫師の相談の下に離乳を斷行する場合には大抵離乳を遂行することが出來るものであります。

併し生來神經の過敏な小兒になりますと、時として新らしい食物に對して、恰も食物の中毒症の際に見るやうな烈しい症狀を呈することがあり、又頗る頑固なる食慾不振を來し、體重の減ることがあります。斯樣な場合には勿論醫師に相談の上で適切の處置を取らなければなりませぬが、兎も角もその食養品の濃度、新鮮の程度、分量及び攝取方法等に細心の注意を拂ひ、極めて徐々に離乳を行ふやうに心掛けることが必要であります。而してその症狀の重い場合には再び母乳榮養に立戻り、輕い場合には食物の濃度と分量とを減じて治癒することがあります。若し又精神の方に別に異常の無い小兒で母乳以外の物を攝取することを拒み、頑固なる食慾不振を來すやう

な場合には、小兒をその周圍より引離して他の家庭又は病院に移して離乳を行ひ成功することがあります。

（以下次號）

家庭衛生

衛生私言

兆司秋次郎

衛生

衛生と云ふのは健康を保持し、健康を增進する方法を云ふのでありませう、それで健康を保つと云ふと幾分か消極的になりますが、健康を增すと云ふ方は積極的であります。然るに普通衛生と云ふと何だか健康な人が病人の眞似をするやうな氣味がありますけれどもこれは誤りであらうと思ひます。衛生も餘り神經が過敏になつては却て滑稽になるのみならず却て衛生の本旨に反するやうなことになります。

私はこゝに纏つた學說を述べる積りでは御座いません、只何人も今日御承知の事で、自分も宜しいと思ふことを、思ひつくまゝに書列べまして、皆様が更に思出さるゝ便宜となり、適宜に取捨選擇して日常の生活の上に參考ともなさるやうに希望するのであります。

朝起

昔から朝起の利益を唱へますが、これは西洋でも日本でも同じ事で、第一に仕事をするのに都合が宜いからであります、朝寢をしては家事の整頓に不都合が起るからであります、それからもう一つは朝起をすると身神の爽快を覺える、田舍で朝早く田畑や野山に出れば非常に心持が好い、都會でも早朝は淸爽を感じます、これは主として空氣の比較的淸潔なのと日光光線の身心に及ぼす佳良の影響に由るのでありまして、既にこれだけでも衛生上十分利益があり

ます。然し今日の如く複雜な社會生活に於きましては、その職業等の關係から、夜早く寢る譯には行かぬ人もあり、又種々の事情から晝よりも主に夜の時間の方が大切な人もありますから、斯う云ふ人は、自然朝起は出來なくなります。卽ち普通必要だけの睡眠時間だけは是非睡眠しなければなりませぬから、夜十二時に寢るとすれば早起るのはどうしても七時か八時になります、若朝五時に起るとすれば夜は遲くとも十時には牀に就かなければなりませぬ、尤も睡眠時間は人に依て多少相異がある、概して小兒及び虛弱なものは多くの睡眠時間を要し、强壯なもの及び老人は比較的少ない睡眠時間で澤山である、又精神的の仕事をするものは身體的の勞働をするものよりも多くの睡眠時間が必要である、平均七、八時間の睡眠は必要であります。如何なる方法でも宜しいから此れだけの睡眠を取ることが必要であります、卽ち夜五時間しか眠れぬ事情のある人ならば、二時間晝寢をすれば宜しい。習慣に依て餘程睡眠時間を節約することが出來ますけれども、無理に睡眠時間を減じますと、確かに身體を害します。夙に起き夜に寢ぬと云ふも程度があります。それで朝起をするのには夜は從つて早寢をしなければなりません、これは特に小兒に必要なことであります。

盥嗽

口を掃除しますことは頗る大切なことで、口中には多少食物の殘物があり、無數の黴菌が繁殖致しますから、朝食前に十分齒牙口腔を淸潔にすべきは勿論でありますが、夜就牀前に一回齒を磨き口を嗽ぐやうにすれば大に宜しい、更に每食後に口を洗ひ、朝夕二回齒磨粉を用ひて丁寧に洗へば愈々理想的であります。斯うすれば食物の味も美く、齒も惡くならず、種々の病氣を防ぐことが出來ます。

齒磨粉は種類も多く性質も種々異つたものがありますけれども、なか〳〵理想的に申分のない齒磨粉と云ふものは少ない、卽ち齒質を損することなく、多

少消毒の效もあり、香や味の爽快なものと云ふのは比較的少ないのですが、併し普通評判の好い齒磨粉は概して衞生的に見ても品質が宜しいやうでありますから、兎に角齒に障らぬと云ふことを見當にして、評判の好い齒磨粉を選むで用ふれば可からうと思ひますが、場合に依ては石鹼でも宜しい、又昔流に只の食鹽でも結構であります。

楊子は餘り毛の硬いものは齒齦や齒を傷めますから不可ませぬが、又餘り柔いものでは能く齒の間の掃除が出來ませんから、硬からず軟かならず先づ中等の硬さのものとし、毛も餘り長くない方が便利であります。これを使ひますのには、一旦湯に浸して水を切り、適度に齒磨粉を著けて齒を磨くのですが、通常只齒の表の方だけを左右に楊子を動かして磨く人が多いやうですけれども、これでは餘り齒が淸潔になりませぬ。楊子は齒列に沿ふて、卽ち齒の根から齒の端の方に向つて、特に齒と齒との間を淸潔にする積りで磨くのが目的に適つた方法であります。

尙は齒の表のみならず裏の方も出來るだけ磨き、更に齒の咀嚼面を注意して磨くことが必要であります。

口を洗ふ爲に用ふる水は、なるべく微溫湯を用ふるのが宜しいのであります。

それから咽頭の奥の方を洗ふ時に大きな音を立てゝガラ〳〵とやるのは比較的效能がありませぬ。それよりは却て少量の水を靜に飮むやうにして僅かに仰向き、輕くアーと發音するやうにすれば、能く咽頭の所に著いてゐる粘液が出て來るものであります。序に申上げて置きますが、平素便秘の傾のある人は朝、面を洗ふ際に湯飮で一杯冷水を飮めば能く通じのつくものであります。これは決して害がありませぬ、却つて胃の内に在る粘液を溶かし、胃粘膜に多少の刺戟を與へますから、暫くして朝食するのに寧ろ都合が好いことゝ思ひます。

次には洗面でありますが、これは顏面を淸潔にする目的としては矢張石鹼を用ひて微溫湯で洗ふのが一

番宜しいのですが、特に御婦人方には最も大切な御顔の緊張を保つて皺襞を防ぎ、艶澤を保つて粗荒を防ぐ爲には、妄に石鹸を使ふわけには參りません、若し石鹸を使へば、その後では必ず脂肪を塗る必要があります、又この目的には、湯で顔を洗ふことは禁物で、必ず水を用ふるが宜しいと云ふことでありま、す、我邦でも湯で顔を洗ふと皺が寄ると申しますが、西洋の化粧本などを見ましても矢張昔から顔の艶を保つのは、湯よりも水の方が效能があると云ふて居ります。

それから顔を洗ひますのに、手拭で以て上下に皮膚を強く摩擦致しますが、これも御婦人方の注意としてはなるべく逆に下から上の方に顔を擦つた方が宜しいと云ふことであります。若し石鹸を用ひますならば、手拭を使はず、手で以て石鹸を塗り、微温湯で能く石鹸が落るまで手の掌で洗ひ落す。此時も額の所は横に摩り、頬の所は口の側から顳顬の方向に向つて上に摩るやうに致します。而して石鹸が十分洗ひ落されましたならば、尙ほ一度新しい水でザブザブと顔を洗つて、乾いた「タオール」で摩らずに水を拭取り、その後で適當に御化粧をするが可いと申すことであります。

尙ほこゝで一つ御注意を申上げて置きたいのは、假令親子の間と雖も、手拭は必ず別にすることであります。又親の使つた洗面水が、まだ清潔で温い、湯が勿體ない、又は湯を汲換へるのが面倒だと云ふ所から、一度使つた湯水で子供に面を洗はせぬことであります。彼の「トラホーム」と云ふ頑固な治癒しにくい眼病は、多くは斯樣な所から傳染するのであります。風眼、卽ち膿漏眼などゝ云ふ恐るべき眼病人があるやうな場合には勿論、その危險なことは誰でも承知して居りますから、手拭や金盥を共同に使ひも致しますまいが、これも極初めには一寸分からぬことがありますから危險です、手拭や洗面水を共同に使はぬと云ふ習慣をつけて置けば、此等の危險を免れることが出來るのであります。

次は頭の始末であります。男子の頭は洗ふことが容易ですから、毎朝洗つて宜敷い、然し多數の人の考へるやうに、朝二三分間大急ぎで以て頭に石鹼を塗つて直ぐ水で洗ひ、それで頭が清潔になり或は腦の爲になるなど〻思ふのは殆ど空想に過ぎませぬ。五分苅の頭でも此の方法では迚も清潔にはなりませぬ、頭を清潔に致しますのには、先づ刷毛を以て十分頭垢を拂ひ、而して後に湯と石鹼で能く洗はなければ、不潔になるとも清潔にはなりませぬ、又二三分間手や手拭で頭に水を掛けたからと云ふて腦髓が冷えて精神が明晰になるものではありませぬ、只冷たいので反射的に寢坊氣目が醒めるに過ぎませぬ、頭は顏とは反對に湯に洗つた方が適當であります。それですから御婦人方が毎朝お髮を解いでお洗ひにならないからと云ふて、決してその爲に病氣になる譯でもなければ、それが爲に智慧が足らぬと云ふ譯でもありませぬ。然し少なくとも一個月に一度位は根本的に髮と共に頭の皮膚まで洗濯をなさるのが宜しいと思ひます。但し毎日髮を解いて頭垢を取り、髮を梳くことは至極宜しい、日本髮の樣に一部分を強く引張つて括きますと、どうしても其部分の毛根が弱つて禿たがるものであります。西洋の男は日本の男子よりも禿頭が多いのに、婦人の方は却て西洋婦人よりも日本婦人の髮の內に隱れたる禿が多いやうに見受けられますが、これは西洋髷の方が簡單で毎日手輕く結ひ直すのに、日本髷は絕えず同じ調子で一部を強く引張つて堅く縛つて置くからではなからうかと想像されます。髮を梳ると髮が脫けて惜いと云ふ氣がなさるかも知れませぬが、これは決して惜むに及びませぬ、梳いて脫けるやうな髮は寧ろ脫けた方が後の爲になります、髮は櫛を通す程良くなる筈であります。格好の好き嫌ひ、習慣、流行等の關係から一概に申すことは出來ませぬけれども、毛髮の衞生上から云ひますと、西洋流の簡單なグルグル卷の方が宜しいやうに考へられます。

（以下次號）

衛生上不都合の事柄（承前）

牀の中の讀書

昔は牀の中で讀書をするなど〻云ふことは不行儀の骨頂で、よく〳〵の惰弱者でもなければ左樣なことはしなかつたものである。又近世學問が盛になり、讀書するものが多くなつても、洋燈の明で本を讀んで居る眠込むでしまつて往々火事を出來す危險があるので宜しくないと戒めることが出來た。所が近來は洋燈が廢つて皆電氣になつて仕舞つたから、油焰が室內に籠ることもなければ、油に火の點く危險も無くなつて、益々寢臺の上や牀の中で本を讀むことが多くなつた。併し牀の中で本を讀むことの宜しくないことは相變ず他の理由がある。それは腹匍になつて胸や腹を壓し、眼を近く本に寄せて讀むことが衛生的に不都合な方法たるのみならず、仰臥して讀むのも眼の爲に宜しくない、第一にうまく光線を採ることが出來ず、書物を手にして居ることが困難で、多くは一側を下にして寢るから、兩眼を同等に働かすことが妨げられる。終に又寢て居て讀めば、兎角書物を目に近づけ易い、これが爲に近眼を惹起す恐がある。特に發育盛の年輩には、これは最も宜敷くないのである。それで十八歲以下のものが、牀の中で書物を讀むといふことは嚴禁しなければならぬがこれは又多少眼に故障のある人は、何人でも守らなければならぬことである。然し全くさうばかりもいかぬ場合がある、例へば病人などでは、よく寢て居て書物を讀まなければならぬことがある。その時は止むを得ないから、尠くとも先づ明りを十分にし、眼に直接光線の來ぬやうに、肩と頭を高くして橫はり、後の方から光線を採るやうにしなければならぬ。

（以下次號）



雜報

○國際病院基金の御下賜

去る九日大隈首相は國際病院設立委員長の資格を以て今回米國より特派されたるバンコース氏夫妻を正賓とし、その官邸に於て午餐會を催したる後創立總會を開きたるが、畏き邊りにては同病院設立の企劃を聞召され、特別の御思召を以て去る十三日御內帑金五萬圓御下賜の御沙汰あり、澁澤男は創立委員を代表して同日宮內省に出頭、右御下賜金を拜受せしが、同十七日設立委員會を開きて其使途及び今後の計劃につき協議し、直ちに民間より基金を募集することゝしたりと、尙ほ米國にては同病院建設の爲に大統領夫人の如きは率先してこれが爲に斡旋し、頗る熱誠を注ぎ既に委員會も組織せられ、建築及び設備費として百萬圓を寄附する筈なりと云ふ。

○遣佛救護班

日本赤十字社の同救護班一行は醫學博士鹽田廣重氏調劑員細川豫備藥劑官、醫員醫學士茂木藏之助氏、同海軍々醫少監隱岐敬治郎氏、看護婦長湯淺ウメ子、本間シゲ子、以下看護婦十數名と決定し、孰れも去る十一日本社に召集せられたり、猶ほ一行は本月二日横濱出帆北野丸に便乘の筈なりしも、同船は印度洋の航海危險の爲、猶ほ古倫母に避泊中にて航海の期日不定なれば一行は二十日前後に横濱解纜の伏見丸に搭乘のことに變更せりと。

○日露協會傷病兵慰問

同協會にては露國傷病兵竝に出征軍人家族慰問の資に供する爲め、過般來寄附金の募集中なりしが、此程閑院宮殿下の上聞に達し、特に多大の御下賜金を賜はるの光榮に接したるの他、實業家其の他各方面の寄附金總額一萬七千餘圓に達せるを以て、一先づこれを露本國へ送ることゝし、此程同會副會

頭後藤男より本邦駐在露國大使に送金方を依頼したりと。

○遣英救護班

日本赤十字社にて英國に派遣すべく昨今準備中なる救護班に關し、去る三日、英國より至急派遣方更に要求し來りたるに依り、翌四日花房社長、小澤、松平兩副社長以下各理事會議の末、來月中旬佛國に對し遣佛救護班の出發に引續き、醫長一名、醫員二名、看護婦長二名、看護婦二十名を、外に事務員及び通譯を以て編成せる該救護班を至急同國に派遣するに決したるが、一行は印度洋より紅海地中海經由の航路危險なる爲め、多分米國經由の途を取るべく、猶ほ著英の後はソーサンプトンの「子トリー」赤十字病院に勤務すべしといへり。

廣告

○婦人衛生會例會

同會は去る七日午後一時より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校内に於て開會、醫學士芳我石雄氏の「開戰前後に於ける歐羅巴の消息」と題する講演ありたり。參會者二百餘名、當日出席の役員姓名は左の如くなりき。（出席順）

濱尾 作子　鳩山 春子　田村きよ子
羽田三緒子　岡田 德子　石川 貞子
三宅 藤子　菊池 峯子　三浦 敎子

○新潟支會例會

同支會にては去る十七日午後一時より同市高等女學校内に於て婦人教育會と聯合の上例會を開き、左記の講話あり、百餘名の出席者にて頗る盛會なりき。

一、戰時に於ける女子の心得　長井千尋君
一、婦人の修養に就て　河井道子女史

○轉居

○小石川區大門町二十一へ　仙田 花子
○高知市外旭村赤石一四三へ　田岡 崇子
○埼玉縣大宮町鈴木病院内へ　川崎やす子

東京醫科大學小兒科主任敎授 醫學博士 弘田長閲
大阪高等醫學校長兼同病院長 醫學博士 佐多愛彥序
元大阪高等醫學校病院小兒科醫長心得 長濱宗佶著

增訂八版

小兒養育の心得

全一册

製本美麗
正價金壹圓八拾錢
小包郵便料（書留）金拾八錢

本書は著者が多年の研究と經驗に基き現今の學理を應用し我國の風俗人情に鑑みて小兒の營養法、保護法、看護法其他小兒の發育敎養に關し日常養育者の心得べき事項は細大漏さず一々懇篤なる說明を加へ倘小兒の發育竝に健康狀態、皮膚の强壯法、急病時の取扱法、學校病等を通俗的に詳しく記述したる者なれば育兒上**父母**の座右に缺くべからざる良書なるのみならず**醫師、看護婦、產婆、保姆、敎員**等凡て直接間接に小兒と關係を有する者の必讀すべき參考書なり

賣捌所

東京市日本橋區通三丁目 丸善株式會社
大阪市東區博勞町四丁目 丸善株式會社大阪支店
京都市三條通麩屋町西入 丸善株式會社京都支店
福岡市博多上西町 丸善株式會社福岡支店

醫學博士男爵 佐藤進閣下題字

水戸婦人科病院長 秋元洗二著

婦人性學

内容見本は郵券貳錢送附あれ

口菊判洋裝美本紙數五百六十餘頁
定價金貳圓參拾錢 特價金壹圓八拾錢
口郵税内地金拾貳錢
海外金參拾五錢

内容概目

第一編 性的解剖學（内外生殖器の各部に於ける性學的所見）

第二編 性的生理學（男女生理上の差異●五官機と性慾●内分泌と性慾●月經論●妊娠論（胎敎論・胎兒の性別））

第三編 性的衛生學（婚姻論●婦人性交論●婦人制慾論●女子手淫論）

第四編 性的心理學（男女心理上の差異●愛情論●婦人特性論●婦人表情論●婦人迷信論）

第五編 性的病理學（性慾と疾病（精神病・神經系病・榮養機病・血行系病・結核性病・婦人科病）●半陰陽●生殖器畸形●白帶下論）

第六編 性的法醫學（婦人性的犯罪總論及各論●墮胎犯論●姦淫罪論●婦人犯罪矯正策●民事的觀察）

第七編 性的形貌學（腦髓と性慾●顏面（口、齒、齒齦、眼、鼻、耳、眉毛、顴骨、額、頭等）と性慾●生殖器と女相）

第八編 性的治療學（心理的治療●藥物的治療●手術的治療●理學的治療●婦人の座浴●婦人の鬱血療法●婦人麻醉法）

水戸市鐵砲町【電話水戸三十九番】

發行所 〔振替口座東京貳九壹九參番〕 水戸婦人病院

私立大日本婦人衞生會役員氏名

總裁　東伏見宮妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
同　岡田德子
同　山本多穗子
同　松平芳子
評議員　石川貞子
同　濱田捨子
同　服部繁子
同　西　舛子
同　緒方悦子
同　小川孝子
同　片山龜子
同　丹波貞子
同　田村きよ子
同　男爵夫人　南部限子
同　山口貞子
同　古市幸子
同　岸　澄子
同　三宅藤子
同　宮下咲子
同　羽田三緒子
同　高木鎌子
同　三浦牧子
同　岩下ゆか子
同　長谷川仲子
同　仁禮壽賀子
同　土肥多越子
同　岡山とし子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　吉武輝枝子
同　高橋孝子
同　鶴原誠子
同　中濱芳子
同　子爵夫人　松井正子
同　伯爵夫人　阿部篤子
同　菊池峯子
同　宮本樂子
同　守屋千代子

婦人衞生雜誌代價及廣告料

代價

一册　定價金貳拾錢　郵稅壹錢
三册（三ヶ月分）前金郵稅共　金四拾五錢
十二册（一ヶ年分）前金郵稅共　金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行　一行二十三字
壹頁　金五圓　半頁金貳圓五拾錢
○特別廣告壹頁金拾圓　半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正三年十一月廿二日印刷
大正三年十一月廿五日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區根津西須賀町九番地　莊司秋次郎
印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　田中增藏
印刷所　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　杏林舍

發行所　東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衞生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鎗屋町　良明堂
同市本郷區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

婦人衛生雜誌第三百號（大正三年）明治四十三年十二月　日（每月一回）